



すこやかな人生、すこやかに

特集－仙台循環器病センター

一般財団法人宮城県成人病予防協会は、集団検診による生活習慣病の予防と早期発見に力を入れて活動を行うなか、発見された病気の治療を行う施設も必要であるとして、1979年に旧泉市市名坂に仙台循環器病センターを開設した。

2016年10月、仙台循環器病センターは仙台市営地下鉄泉中央駅前に移転、新オープンした。協会創設者 元 東北大
学総長 黒川利雄先生の掲げた「すこやかな人生、すこやかに」の理念のもと、生活習慣病予防医療のパイオニアとして循環器疾患の予防・検診から治療、再発予防まで一貫した医療サービスを提供しつづけている。

病床数：一般病床 116 床 (HCU4 床含む)

診療科：循環器内科、心臓血管外科、消化器外科、呼吸器内科、内科、外科、麻酔科





写真上：機能訓練室では早期退院に向けた体操や歩行マシーンでのウォーキングなどが行われる

写真下：総合案内。ホスピタルセルヴィール（案内係）が利用者の来院目的に合わせてスムーズに案内する

仙台北部広域をカバーする新拠点

新たな拠点となった泉中央駅は仙台地下鉄南北線の終点にあたる。仙台市北部や隣接市への路線バス網が発達し、仙台中心市街地とベッドタウンを結ぶハブステーションとして機能している。近年は駅周辺の開発も進み、仙台の北の副都心として発展が期待されているエリアである。

「仙台循環器病センターは駅前再開発事業の一環で誘致を受けました。交通至便の場所に移転したことで、健診を気軽に受けに来ていただけますし、治療やリハビリで通院される方にも便利になりました。検診車による巡回検診や、予防啓発セミナー、イベントなどを積極的に開催し、これまで以上に広い範囲の地域の方々に、身近な健康拠点として認知、利用していただきたいと考えています」と一般財団法人 宮城県成人病予防協会の西村潤専務理事は話す。



一般財団法人 宮城県成人病予防協会
西村 潤 専務理事



写真左：検診車。広域の健康拠点となるために、巡回検診を通じて予防・啓発を行っていく
写真中：内視鏡室。最新のデジタル内視鏡機器を導入し、苦痛の少ない検査をめざす
写真右：総合健診センター。女性専用の待合室が設けられている

予防から治療、リハビリテーションまでワンストップ医療体制を完成

循環器疾患を専門とする病院として開院した仙台循環器病センターは、一般財団法人宮城県成人病予防協会の治療部門を担う拠点施設として、診療科の増設に取り組んできた。現在は、心疾患、血管疾患、高血圧、動脈硬化等を専門とする循環器内科と心臓血管外科に加え、日本人のがん罹患数の約半数を占める胃や大腸などの消化器外科にも力を入れ、生活習慣病全般に対応できる診療体制を整えている。

さらに、2016年の移転に伴い、院内には総合健診センターが併設された。

「健診・人間ドック部門と治療部門が統合され、ひとつの施設内で健診から治療、リハビリテーションまでを行う真のワン

ストップ医療サービスの提供が可能となりました」

生活習慣病には高血圧や糖尿病といった慢性的な病気から、日本の三大疾病に含まれる心筋梗塞や脳梗塞といった危険な急性の病気まであるが、いずれも生活習慣が大きく関わるものとされている。

「まずは“人生はすこやかであるべきもの”として健康への意識を高めていただくことが重要です。総合健診センターとの統合によって、これまで以上に安心して健診を受けられるようになりました。当協会の原点にある予防・啓発と健診の活動に、これからますます力を入れていきます」



鹿島建物管理概要

管理開始 2016年8月
管理内容 設備日常管理業務、設備機器定期点検業務（一部）
管轄 東北支社

建築概要

施設名称 一般財団法人宮城県成人病予防協会
附属仙台循環器病センター
所在地 宮城県仙台市泉区泉中央1丁目6-12
主要用途 医療施設
設計 株式会社山下設計
施工 鹿島建設株式会社
面積 敷地面積 4,904.56m²
延床面積 9,993.54m²
構造 S造

主要設備概要

電気設備	高圧	6.6kV
	設備容量	2,450kVA
	非常用発電機	350kVA × 1台
	直流電源装置	300AH / 10HR
空調設備	個別空調方式	空冷 PAC エアコン、外気処理エアコン
衛生設備	受水槽、ガス給湯器ユニット、雑排水槽、湧水槽、ガス焚簡易ボイラ	

最先端医療で すこやかな社会復帰を 叶える



ハイブリッド手術室。カテーテル治療と手術を同室で行うことができる

2つの手術室を駆使した低侵襲手術

移転に際して最新の医療機器、設備が導入されたことで、より精度の高い診断や、高度な治療が可能となった。

「最新鋭のシステムを導入した2つの手術室“エンドアルファ手術室”“ハイブリッド手術室”により、患者さんの身体的負担を最小限にした治療を行います。新オープン以来、高い稼働率で治療に役立てられています」と仙台循環器病センターの内田達郎院長は話す。

“エンドアルファ手術室”は消化器をはじめとする一般外科で使用する手術室に導入された最新鋭のシステムで、内視鏡手術機器、照明、カメラ、手術台などを一台のコントロールパネルで集中制御できるため、外科手術の効率が上がり、手術時間の短縮につながる。心臓血管外科が使用する“ハイブリッド手術室”は、カテーテル室の機能を融合した手術室のことであり、従来別々に行っていたカテーテル治療と手術を必要に応じて同室で行うことができ、患者の身体的負担を減らすことができる。

「当院では、以前から内視鏡技術等を駆使した患者さんに負荷の少ない治療法・検査法の推進を方針として掲げてきました。新しい2つの手術室は、当院の方針を一層促進していく足がかりになったと感じています」



写真上：エンドアルファ手術室
写真下：ハイブリッド手術室

地域に頼りにされる病院をめざして

2018年4月には移転オープンから1年半を迎える。新しくなった病院の運営も軌道に乗り、つぎのステップでは救急医療の体制強化をめざしている。

「24時間、循環器専門の医師が常駐していますが、以前より広範囲の地域の健康拠点としての役割を果たしていくためにも、救急での受け入れ可能な人数を少しでも増やしていきたいと考えています。仙台北部の地域の方から頼りにされる病院となるべく、医療サービスが提供できる基盤づくりに取り組んでいきます」



一般財団法人 宮城県成人病予防協会附属
仙台循環器病センター
内田 達郎 院長



写真上：救急入口
写真下：救命救急講習の風景。24時間365日の救急医療体制のさらなる強化をめざしている

施設の能力を 最大限に引き出す運営を



西村様 泉中央駅前に移転してから、もうすぐ1年半になりますが、新しい顔ぶれの患者さんも増えて、駅前の好立地に移転できたことの効果を感じられますね。

半杭様 建物の設計段階では苦労がありましたが、その甲斐があったと思います。駅前の決まった区画に誘致を受けたということで、建物の規模にも厳しい制約があるなかで設計をする必要がありました。

佐藤様 旧施設と比べ、建物の延べ床面積はほとんど変わらないまま、健診センターの統合や手術室の拡充を盛り込んだので、無駄のない合理的なつくりが追求された建物となりました。この条件のなかでできることはやった、と思えることができましたね。

内田様 私たちが長く望んできた総合的な医療サービスを提供するための建物、設備が整備されました。これからは新しい施設、環境を最大限に活かすための運営基盤を強化していく段階です。

西村様 そのためにも、当院で働くスタッフ一人ひとりが病院をより良くしていこうという意識をもって積極的に運営に携わってもらいたいと思っています。

半杭様 鹿島建物さんには、主に院内の空調設備と、医療設備を除く電気設備、衛生設備の保守管理をお願いしていますが、病院スタッフの一員という意識で、常に来院される方、患者さんのことを第一に考えた行動を期待しています。

別府 来院された方からは、当然、私も病院スタッフとしてみられますから、院内を巡回している際に検査室の場所を訪ねられたらご案内できなくてはなりませんし、具合が悪そうな患者さんを見かければ、すぐに近くの看護師さんにお伝えするようにしています。

佐藤様 健診センターを統合したこともあり、来院者数だけでなく、運営スタッフの人数が増えましたので、何かあった時にすぐに対応できるよう、これまで以上に部門間の連携を強めていく必要があると感じています。

中村 病院管理では、患者さんと同じ空間で働いているスタッフさんとのコミュニケーションが重要です。特に、仙台循環器病センターは、まだ建物も設備も新しいので、設備の異常への対処というよりは、例えばトイレが詰まつたというような日常的な使用に伴う不具合や、病室の温度を調整してほしいといったご要望への対処がほとんどです。

初めに気が付かれたスタッフさんから、いち早くご連絡をいただき迅速に対応することで、患者さんをはじめとする施設のご利用者へおかけするご不便が少なく済みます。

別府 設備の関係で何かあった時にはすぐに私にご連絡いただけるよう、できるだけ多くのスタッフの方に私の顔と仕事を覚えていただきたいと思い、日ごろからコミュニケーションの機会を逃さないように心がけています。また、ご連絡いただいたらすぐに駆け付けられるように施設内の動線を頭に叩き込んでいます。



写真左：医療用酸素ボンベが並ぶマニホールド室の点検も担当する

写真中：液酸タンクの冬季の点検作業は積もった雪を落とすところからはじめる

写真右：手術室の空気フィルターの交換作業の様子。手術室内では手術着に着替えて作業を行う



内田様 健診による早期発見と早期治療により命をまもる、私たちの仕事と同じですね。鹿島建物さんには、気になることがあれば気軽に相談できる、この建物のかかりつけ医のような存在を担っていただきたいですね。引き続きよろしくお願ひいたします。



写真左より
一般財団法人 宮城県成人病予防協会 附属 仙台循環器病センター
事務部 総務課
係長 佐藤 祐司 様

一般財団法人 宮城県成人病予防協会 附属 仙台循環器病センター
事務部 施設管理課
半杭 昇 様

一般財団法人 宮城県成人病予防協会 附属 仙台循環器病センター
院長 内田 達郎 様

一般財団法人 宮城県成人病予防協会
専務理事 西村 潤 様

鹿島建物総合管理株式会社
東北支社 建物管理部 仙台循環器病センター管理事務所
別府 勝

鹿島建物総合管理株式会社
東北支社 建物管理部(兼)営業部
グループ長 中村 繁樹



常に緊張感をもち、
真摯に取り組む

私たちの仕事は、直接病気を治療する内容ではありませんが、患者さんが過ごされる空間をまもる立場として、間接的に命を預かっているという責任感をもって日々の管理にあたっています。